

データという素材で、 最高の料理を競う 時代がやってきた。

データサイエンスって
私たちの日常に
関係ありますか？
岩見先生、教えてください。



難しいと思われがちなデータサイエンスは、
実は身近に存在します。例えば、会社で何か大きな決断を
する時、上司に「俺の経験や勘に基づいてこうすべきだ！」
と言われて納得できるでしょうか？ そんな時は、
客観的なデータやエビデンス(根拠)に沿って話し合い、
意思決定していくのが一番合理的です。ビジネスに限らず、
家族にお願い事をする時にも効果的かもしれません。
今の時代、技術の発展で精度の高いデータを集めることは
比較的簡単にできますが、その情報をいかに分析し、
活用できるかが求められています。
料理に例えてみると、じゃがいも、玉ねぎ、お肉という
データを集めて、肉じゃがを作るか、カレーを作るか、
もしくはすでにカレーになったデータを入手して、
カツカレーにアレンジするか。いい素材(データ)はすでに
あるので、そこから個人がどう美味しく、面白い料理を
作るのか勝負する時代が来ています。
例えば、家計簿、体重管理のツールなど、
身の回りにあるデータから興味を持ってみると、
面白いアイデアが生まれてきそうです。



経営学科
講師 岩見 昌邦


和光3分大学

予約制

和光大学のオープンキャンパス 2022
5/28(土)・6/11(土) 各日 13:00~16:30

7月以降も毎月開催!!

模擬授業も実施します

ご予約・詳細はホームページへ

現代人間学部

表現学部

経済経営学部

小田急線鶴川駅から
徒歩約15分

<https://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学